
それは.....？

ありま氷炎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

それは……？

【Nコード】

N6977Z

【作者名】

ありま氷炎

【あらすじ】

Christmas days の後の木田とパトリック。

(前書き)

衝動的に書いてしまった。

Christmas days の後の木田とパトリック。

完全に自己満足です。書きたかったのです。

「木田サン」

僕はそう呼んだ男の顔に恐怖を覚える。

殺される。

男の視線に殺意が込められていた。

しかし、男はにこつと笑うと四角箱を差し出す。

「コレお土産。色々お世話にナリマシタ」

「……ああ、ありがとう」

僕はぎこちない手つきで箱を受け取る。

箱はなぜかプラスチックの包装が外れていた。

「それハンドメイドですよ。早く食べたほうがイイミタイデス」

男はそれはそれは穏やかな笑顔を向けるとくるりと背を向けた。

お土産を個人的に受け取ったのはなぜか僕ひとりだった。

「木田さん。いいなあ。それってクッキー？」

形野さんが身を乗り出して僕の手元を見つめる。

「形野サン、他にもアリマスヨ。それはタイで有名なお菓子ミタイデス。以前木田サンがタイにいたと聞いて、お土産ヤサンでミツケテ、特別に買って来マシタ」

「ふーん。そうなのね。パトリック、それは何？マンゴプリン？」

形野さんは事務所の真ん中で広げられるお菓子の山を見つけると、僕の持つものに興味を失い、パトリックの元へ走る。

僕はじっと手元を見つめる。

大丈夫だろうか。これ？

毒とか入ってるとか？

視線を感じて、目を向けるとパトリックがこちらを見てるのがわかった。

それはそれは美しい笑顔だった。

やめておこう。

危険だ。

僕はそれを自宅に持って帰り処分することを決めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6977z/>

それは.....？

2011年12月25日00時49分発行